

授業科目 在宅ケア論 I	科目概要・形式 2単位 30時間 必修	配当年次 1年 前期
科目責任者	川口 徹	
担当者	川口 徹、安田 肇	
1. 科目のねらい・目標 主として高齢者障害者、および肢体不自由児・者を対象とした在宅ケアの社会的、歴史的背景および取り巻く環境などについて概説し、在宅ケアについての基礎的な理解を深める。さらに、在宅ケアの実際、およびシミュレーションなどから、在宅ケアを展開する方法についての検証を行い、さまざまな角度からの生活支援のあり方を模索し、在宅ケアの実践能力を広げる。 また、特に難病者へのリハビリテーションケアにおける一連の知識を習得し、症状が進行していく者に対する在宅ケアについて、その展開能力を高める。		
2. 授業計画・内容 (川口 徹) 1. 在宅ケア概説日本における在宅ケアの現状 2. 日本における在宅ケアの現状 3. 日本における在宅ケアの課題 4. 日本における在宅ケアの展開方法 5. 在宅ケアの事例検討 6. 在宅ケアの事例検討 7. 在宅ケアの事例検討 8. 在宅ケアの事例検討 9. リハビリテーションの視点からみた在宅ケア (安田 肇) 10. 神経難病総論 (筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、パーキンソン病を中心に) 11. 神経難病患者の在宅ケアのための技術的側面 (運動療法、経管栄養法、在宅人工呼吸療法など) 12. 神経難病患者の在宅ケアにあたっての介護者の介護負担について 13. 神経難病患者の終末期の倫理的問題		
3. 教科書、参考書 教科書は指定しない。参考書は授業の中で紹介する。		
4. 成績評価方法 講義参加状況、提出されたレポート等で総合判断する。		
5. その他 主体的な授業参加を希望する。 特に事例検討では、各自のレポートで授業を展開する予定である。		

授業科目 地域社会学特論	科目概要・形式 2単位 30時間 必修	配当年次 1年 後期
科目責任者	平川 毅彦	
担当者	平川 毅彦	
1. 科目のねらい・目標 <p>「地域社会」および「コミュニティ」という考え方の形成プロセス・議論をたどり、これらの社会学的意味を明らかにしたうえで、「福祉」という視点から地域社会をとらえる「福祉コミュニティ」の特徴と課題を事例をもとに検討する。</p>		
2. 授業計画・内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 地域社会とコミュニティ 3. 戦後町内会を巡る議論と都市コミュニティ論 4. 社会福祉から見た地域社会①：生活問題発生の場合 5. 社会福祉から見た地域社会②：生活の主體的側面と地域社会 6. 「福祉コミュニティ」の考え方 7. 事例検討①：春日井市の事例 8. 事例検討②：岡崎市の事例 9. 事例検討③：岡崎市の事例（続） 10. 「福祉コミュニティ」論の再検討 11. 事例検討：ビデオを見て考える 12. まとめと課題作成 		
3. 教科書、参考書 教科書 平川毅彦『「福祉コミュニティ」と地域社会』 世界思想社 参考書 必要に応じて授業中に掲示します。		
4. 成績評価方法 <p>出席・受講態度、作成課題の結果等で総合的に評価します。</p>		
5. その他 <p>指定した「教科書」は授業開始時まで各自が必ず購入し、受講時に持参すること。特別な理由がない限り、図書館等から借り出したものやコピーは認めない。教科書を持参していない場合、その場で受講取り消しを宣告することもあるので注意してほしい。</p> <p>本講義受講前に最低限このシラバスは最後まで目をとおしておくこと。</p>		

授業科目 社会保障特論	科目概要・形式 2単位 30時間	配当年次 1年 後期
科目責任者	増山 道康	
担当者	増山 道康	
1. 科目のねらい・目標		
<p>1. 社会保障制度形成時期における制度に内在する設計思想と、それを支持する国民感情や思想潮流を理解する。</p> <p>2. 現代社会における社会保障制度の意義と政策的含意を理解する。</p> <p>3. 欧米の社会保障制度との比較を通じて、日本の社会保障制度の枠組みや個別制度の特質を理解する。</p>		
2. 授業計画・内容		
授業は、対話形式で行う。		
国家制度としての社会保障の歴史・理論を学ぶと同時に、現実の制度批判を実証的に行う。		
<p>1) 社会保障制度パラダイムの形成と現段階を学ぶ。 アメリカにおける社会保障制度創設の経過と意義を知る。 日本の社会保障形成の経過と設計思想を学ぶ。</p> <p>2) 個別の社会保障制度形成の経過と策定の理由を知る。 厚生年金総説の経過と意義 GHQ 初期対日政策と失業保険制度 児童手当～こども手当（類似点と相違点）</p> <p>3) 社会保障制度の機能を確認する。 救貧と防貧の制度間整合性 ビルトインスタビライザーがどのように機能するのか（公共事業と社会保障）</p> <p>4) 現代日本の社会保障の行方を展望する。 資本主義国家における貧困と救貧制度 高負担高福祉をめざせるのか（パラダイム転換の成否）</p>		
3. 教科書、参考書		
教科書：杉田米行監修、増山道康他著「日米の社会保障とその背景」アメリカ・アジア太平洋地域研究叢書4巻、大学教育出版 2010.3 予定		
参考書：足立幸男「公共政策とはなにか」ミネルヴァ書房 2009 ISBN978-4-623-05440-4		
見上崇洋・佐藤満「政策科学の基礎とアプローチ 第2版」ミネルヴァ書房 2009		
ISBN978-4-623-05411-4		
宮本太郎「福祉政治」有斐閣 2008 ISBN978-4-641-17802-1		
西村健一郎他「社会保障法」有斐閣 2005 ISBN4-641-14351-X		
4. 成績評価方法		
出席を重視する。授業への参画度とレポートを総合的に判断する。		
5. その他		
教科書は必ず入手してください。		
参考書は、少し高度な内容ですが、できるだけ読破してください。		
活発な討論を期待します。		

授業科目	科目概要・形式	配当年次
人体機能解剖学特論	2単位 30時間	1年 後期
科目責任者	鈴木 孝夫	
担当者	鈴木 孝夫	
1. 科目のねらい・目標		
<p>人体を構成する諸器官はそれぞれ合目的に形成されている。各器官が持つ個々の臓器特性は、これらを統制・制御する内分泌・神経系を中心とする生体情報によって恒常的に維持されている。これら各器官系について、肉眼さらには細胞・組織学的レベルの形態学的な相同・相違（比較形態学）から解析を行い、形態の奥に潜む生物学的原則を理解する。</p>		
<p>さらに、他の動物には見られない人体構造の特性を、脊椎動物の進化にともなう人体各部の形成機序—系統発生的見地—、および、各器官系の胎生期における形態形成過程—個体発生的見地—を通して、その必然性を理解する。</p>		
2. 授業計画・内容		
<p>各器官系について、その基本構造に関する英文を抄読すると共に、実際にマクロ（肉眼）およびミクロ（顕微鏡）的に標本を観察・理解し、その形のもつ必然性を学習・理解する。</p>		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器系Ⅰ：骨・筋・関節の基本構造に関する英文抄読 2. 運動器系Ⅱ：骨・筋・関節の形態形成に関する英文抄読 3. 運動器系Ⅲ：骨・筋・関節のマクロ・ミクロ的標本観察 		
<p>以下、各器官系についても同様に授業を展開する。</p>		
<ol style="list-style-type: none"> 4～6. 循環器系Ⅰ～Ⅲ 7～9. 内臓系Ⅰ～Ⅲ 10～12. 神経系Ⅰ～Ⅲ 13. 予備 		
3. 教科書、参考書		
<p>英文文献、ならびに講義・実習のポイントをまとめたプリント、小冊子を配布する。</p>		
<p>【参考書】</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・Sylvia S. Mader: Human Biology 7th ed. (McGraw-Hill) ・Moore & Dalley: Clinical Oriented Anatomy 4th ed. (Lippincott Williams & Wilkins) ・Bloom & Fawcett: Concise Histology (Thomson Publishing) ・A. ポルトマン著 島崎三郎訳：脊椎動物比較形態学（岩波書店） 		
4. 成績評価方法		
<p>出席状況および課題レポートにより総合的に評価する。</p>		
5. その他		

授業科目 病態生理学特論	科目概要・形式 2単位 30時間	配当年次 1年 前期																																										
科目責任者	神成一哉																																											
担当者	尾崎 勇、渡部一郎、岩月宏泰																																											
1. 科目のねらい・目標 本科目では、医療及び福祉介護の現場で日常遭遇することの多い代表的な疾患あるいは病態の成因や仕組みに関する基礎的事項及び最新の知見を概説する。実務に役立つように知識を整理して理解してもらうことを目標とする。 また、病態生理の理解のためには各種臓器の構造に関する知識も重要である。そこで実際に肉眼および顕微鏡で臓器を観察する組織学演習を合わせて行う。																																												
2. 授業計画・内容 <table border="1" data-bbox="272 813 1110 1350"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>担当教員</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>神成</td><td>高血圧</td></tr> <tr><td>2</td><td>神成</td><td>糖尿病</td></tr> <tr><td>3</td><td>神成</td><td>ウイルス性肝炎</td></tr> <tr><td>4</td><td>神成</td><td>抗生物質の使い方</td></tr> <tr><td>5</td><td>神成</td><td>認知症</td></tr> <tr><td>6</td><td>神成</td><td>神経難病</td></tr> <tr><td>7</td><td>尾崎</td><td>頭痛</td></tr> <tr><td>8</td><td>尾崎</td><td>しびれ</td></tr> <tr><td>9</td><td>尾崎</td><td>痛み</td></tr> <tr><td>10</td><td>渡部</td><td>脳卒中</td></tr> <tr><td>11</td><td>渡部</td><td>関節リウマチ</td></tr> <tr><td>12</td><td>岩月</td><td>組織学演習1</td></tr> <tr><td>13</td><td>岩月</td><td>組織学演習2</td></tr> </tbody> </table>			回	担当教員	内容	1	神成	高血圧	2	神成	糖尿病	3	神成	ウイルス性肝炎	4	神成	抗生物質の使い方	5	神成	認知症	6	神成	神経難病	7	尾崎	頭痛	8	尾崎	しびれ	9	尾崎	痛み	10	渡部	脳卒中	11	渡部	関節リウマチ	12	岩月	組織学演習1	13	岩月	組織学演習2
回	担当教員	内容																																										
1	神成	高血圧																																										
2	神成	糖尿病																																										
3	神成	ウイルス性肝炎																																										
4	神成	抗生物質の使い方																																										
5	神成	認知症																																										
6	神成	神経難病																																										
7	尾崎	頭痛																																										
8	尾崎	しびれ																																										
9	尾崎	痛み																																										
10	渡部	脳卒中																																										
11	渡部	関節リウマチ																																										
12	岩月	組織学演習1																																										
13	岩月	組織学演習2																																										
3. 教科書、参考書 (参考書) 山口和克監修：新版 病気の地図帳，講談社 高橋長雄監修：からだの地図帳，講談社																																												
4. 成績評価方法 出席とレポートで評価する																																												
5. その他																																												

授業科目 障害科学特論	科目概要・形式 2単位 30時間 必修	配当年次 2年 前期
科目責任者	内山 靖	
担当者	内山 靖	
1. 科目のねらい・目標 <p>障害を科学的に捉えて、より効果的な介入（治療・指導・調整・ケア・予防を含む）を展開するための障害の分析、評価、効果判定についての理論的背景と具体的な方法を学ぶ。</p>		
2. 授業計画・内容 <p>第1回 障害科学総論 第2回 理学療法モデルの変遷 第3回 Evidence Based Practice 第4回 信頼性と妥当性 第5回 評価指標 第6回 無作為化比較対照試験（RCT） 第7回 シングル・ケーススタディ 第8回 効果判定 第9回 神経系症候障害学（トピックス） 第10回 運動器系障害学（トピックス） 第11回 呼吸循環代謝器系障害学（トピックス） 第12回 生涯発達障害学（トピックス） 第13回 総括（試験を含む）</p>		
3. 教科書、参考書 <p>特に指定しません</p>		
4. 成績評価方法 <p>講義参加状況、提出されたレポート、試験などによる総合評価</p>		
5. その他 <p>受講者が希望する討議内容を含みます。 積極的な参加を期待します。</p>		

授業科目 栄養指導論	科目概要・形式 2単位 30時間 必修	配当年次 1年 後期
科目責任者	吉岡美子	
担当者	吉岡美子、山本茂	
1. 科目のねらい・目標		
<p>生活習慣病の一次予防を主要テーマとし、食生活・栄養と疾病の関わり、ならびに栄養教育・指導法を学ぶ。具体的には、乳幼児から高齢者までを対象としたライフステージ毎の栄養教育・指導の方法と技法、ならびに評価法について学ぶ。</p> <p>前半では、栄養教育・指導の基本的理論と実践に関わる部分について、後半では、より具体的な例や国際的な視点からの例をあげ、対象者の問題点を的確にとらえ、解決に近づけていくための方法を考える。</p>		
2. 授業計画・内容		
<p>(吉岡)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 栄養指導と栄養アセスメントについて 2) ライフステージと栄養教育について 3) 食行動変容と栄養教育について 4) 栄養教育の評価について <p>(山本) 集中講義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 栄養指導のために必要な基本情報の正誤について 2) 子供の食生活の実態と適切な栄養教育法について 3) 成人の行動変容を促す継続性の高い栄養指導方法について 4) 諸外国における栄養実践について 		
3. 教科書、参考書 (吉岡) ・各授業において参考資料などを配付する (山本) ・各授業において参考資料などを配付する		
4. 成績評価方法 (吉岡担当) 出席とレポートにより評価する。 (山本担当) 出席とレポートにより評価する。		
5. その他		

授業科目 臨床栄養学特論	科目概要・形式 2単位 30時間 選択	配当年次 1年 後期
科目責任者	吉池 信男	
担当者	吉池 信男、松江 一、藤田 修三、今 淳、佐藤 伸、齋藤 長徳、清水 亮	
1. 科目のねらい・目標 医療・介護・予防等に必要栄養実践に関わる専門知識や最新情報を得るとともに、関連する研究の仮説設定、研究デザイン、結果の解析や考察等を行う上で必要な考え方やスキルを修得することを目的とする。オムニバスで、講義や演習を行う。		
2. 授業計画・内容 1) 栄養アセスメント、栄養ケアマネジメントの考え方と実践 2) チーム医療の中での栄養サポートの実践と評価 3) 介護を必要とする人への栄養ケア 4) 特殊疾病に対する栄養療法 5) 集団を対象とした栄養アセスメントと計画 6) 総合演習、まとめ		
3. 教科書、参考書 ・各授業において参考資料などを配付する		
4. 成績評価方法 出席、講義・演習中の積極性、並びにレポートにより評価する。		
5. その他		

授業科目 公衆衛生学特論	科目概要・形式 2単位 30時間 必修	配当年次 2年 前期
科目責任者	大久保 一郎	
担当者	大久保 一郎、大西 基喜	
<p>1. 科目のねらい・目標</p> <p>日本の保健医療制度の特徴、最近の保健医療行政の課題、および地域診断の考え方や活用について学び、地域で生活している人々を地域の文化や経済を含めて集団として捉え、疾病の予防、健康増進、健康づくりを目指す公衆衛生活動・ヘルスプロモーション活動について理解する。</p>		
<p>2. 授業計画・内容</p> <p>(大久保一郎) (10コマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本の保健医療制度の特徴 2 最近の保健医療行政の課題 3 がん検診の評価 4 QOLの測定法 5 医療経済学の基礎的な考え方 6 公衆衛生と医療経済 <p>(大西基喜) (5コマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本県の保健医療行政の現状と課題 2 保健衛生統計から県民の健康状況をよみとく方法 3 地域診断の考え方と活用 4 地域診断の具体的な進め方 5 地域診断ー地域保健活動・保健行政への応用 		
<p>3. 教科書・参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚生統計協会：国民衛生の動向，2007。（必携） ・柳川洋他編；地域保健活動のための疫学、第2版、日本公衆衛生協会、2006。 ISBN 4-260-00171-X ・厚生統計協会：厚生労働白書，2007。 ・厚生統計協会；福祉と年金の動向，2007。 <p>他適宜お知らせします。</p>		
<p>4. 成績評価方法</p> <p>出席状況およびレポートを総合して評価します。</p>		
<p>5. その他</p>		

授業科目 生活環境科学特論	科目概要・形式 2単位 30時間 必修	配当年次 1年 前期
科目責任者	佐藤 英助	
担当者	佐藤 英助、柏倉 正	
1. 科目のねらい・目標 <p>私たちを取り巻いている生活環境や環境汚染物質が、健康に対してどのような影響を及ぼしているかを、地域の環境の現状のみならず広範な視点から明らかにし学習する。加えて、将来予測を含めた地球規模の環境問題と健康影響について具体的事例をもとに学び、その解決法および予防の方策について考察する。</p>		
2. 授業計画・内容 <p>(佐藤英助)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 放射線：身の回りの放射線の性質および人体への影響について。 (2) 電磁波：送電線からの極超低周波や電子レンジ・携帯電話などからのマイクロ波について。 (3) オゾン層の破壊：フロンガスの大気中への放出により発生するオゾンホールについて。 (4) 紫外線：物理的環境要因の一つとしての紫外線の健康影響について。 (5) 抗酸化能：果実や野菜などの食品の抗酸化活性について。 (6) 地球温暖化：石油の大量消費による二酸化炭素発生と地球温暖化について。 (7) 酸性雨：国境を越えてひろがる酸性雨の原因と自然環境やヒトへの健康影響について。 <p>(柏倉正)</p> <p>本講の前半では、生理学および免疫学の基礎についてふれる。ついで、環境ホルモンをはじめとする様々な環境汚染物質の健康影響について学習する。加えて、喫煙や嗜好あるいは食生活、多様なストレスなどの環境要因が、ヒトの健康に及ぼす影響について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> (8) 環境と生体適応（その1） (9) 環境と生体適応（その2） (10) 生活環境と生体防御（その1） (11) 生活環境と生体防御（その2） (12) 環境汚染物質と健康影響 (13) 各種ストレスと健康影響 		
3. 教科書、参考書 <p>特に教科書は使わないが、関係資料を配布する。</p>		
4. 成績評価方法 <p>出席率およびレポートをもとに総合的に判定する。</p>		
5. その他		

授業科目 看護管理学	科目概要・形式 2単位 30時間 選択	配当年次 1年次 後期
科目責任者	上泉 和子	
担当者	上泉 和子、リボウィッツよし子	
<p>1. 科目のねらい・目標</p> <p>看護管理学の基盤となる諸理論をふまえ、看護管理者あるいは専門看護師として変革するための知識を学び、変革の能力を養う。</p>		
<p>2. 授業計画・内容</p> <p>下記の内容について、講義、プレゼンテーション、演習、ディスカッションを行う。</p> <p>〔上泉和子〕 8コマ</p> <p>I. 看護管理学概論（組織論）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理学の歴史の変遷 2. 組織論の視点からみた看護関連組織の分析とデザイン 3. 組織行動論の視点から見た人的資源管理のあり方 4. ヘルスケア関連組織におけるチームでの取り組みの課題 <p>II. 変革のマネジメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 変革理論 2. 変革のための分析と変革計画 <p>〔リボウィッツよし子〕 6コマ</p> <p>I. 質評価と改善に関する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 質改善の概念と歴史の変遷 2. 構造、プロセス、アウトカム評価の実践 3. ユニットベースの質改善の組織化と方法 4. 企業の質管理に学ぶ看護実践への応用 <p>II. リスクマネジメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リスクマネジメントの概念と歴史の変遷 2. リスクマネジメントの実践的活動 3. 看護サービスの質に影響を及ぼす諸因子の分析 4. リスクマネジメントの視点から実践活動の変革案を構築する 		
<p>3. 教科書・参考書</p> <p>特に指定しない。必要に応じてその都度参考書を提示する。</p>		
<p>4. 成績評価方法</p> <p>レポート、プレゼンテーション</p>		
<p>5. その他</p>		

授業科目	科目概要・形式	配当年次
看護コンサルテーション	2単位 30時間 必修	2年次 前期
科目責任者	上泉 和子	
担当者	上泉 和子、パメラ・ミナリク (Pamera Minarik)	
<p>1. 科目のねらい・目標</p> <p>看護分野におけるコンサルテーションの概念、実践モデル、コンサルタントの役割、およびコンサルティングのプロセスについて学ぶ。 また、専門看護師の行うコンサルテーションおよび管理的コンサルテーションの実践について学ぶ。</p> <p>(1) To define consultation (2) To describe models of consultation which are used to guide various types of consultation (3) To discuss the roles used by consultation (4) To discuss phases of consultation (5) To discuss the advanced nursing practice consultation model and process development by Barron & White</p>		
<p>2. 授業計画・内容</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>[上泉和子] 8コマ 組織コンサルテーションのあり方と方法 (1) コンサルテーションモデル (2) 組織コンサルテーション (3) 組織のコンサルティングプロセス (4) 組織分析とコンサルテーションの実際 (5) コンサルテーションへの文化的影響</p> <p>[パメラ・ミナリク] 6コマ APN、専門看護師等のコンサルテーションのあり方と方法 (1) Consultation models and roles (2) Consultation phases and process (3) Advanced nursing practice consultation models and process development by Barron & White</p>		
<p>3. 教科書・参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Lippitt,G.L.,& Lippitt,R.,(1986):The Consulting Process in Action 2nd.Ed. ・エドガー・H/シャイン著、稲葉元吉他訳 (1998) :新しい人間管理と問題解決、プロセスコンサルテーションが組織を変える、産業大学出版部. ・Susan L. Norwood,(2003):Nursing Consultation –A Framework for Working with Communities.2nd.Ed.Prentice Hall. <p>・その他参考文献一覧は別途配布する</p>		
<p>4. 成績評価方法</p> <p>レポート</p>		
<p>5. その他</p>		

授業科目 看護倫理学	科目概要・形式 2単位 30時間 必修	配当年次 1年 前期
科目責任者	中村 由美子	
担当者	中村 由美子、 志自岐 康子	
科目のねらい・目標 [中村由美子] ヘルスケアの場における倫理的問題の事例を通して、問題の意味やより望ましいあり方や対処について、倫理原則・ケアの倫理・倫理綱領・法的側面から学ぶ。 [志自岐康子] ヘルスケアの現場で看護職が直面する倫理的課題を把握し、倫理的意思決定能力を高めるために、倫理に関する基本的概念や理論を学び、倫理的課題への対応について探求する。		
2. 授業計画・内容 [中村由美子] 1. 事例（1）の提示と分析 2. 同上 3. 事例（2）の提示と分析 4. 同上 5. 事例（3）の提示と分析 6. 同上 [志自岐康子] 1. 生命倫理における基本原理 2. 看護倫理の定義と意義 3. 看護ケアにおける倫理的課題とその対応 －倫理的意思決定モデルを用いて－ 事例検討		
3. 教科書、参考書 [中村由美子] 特に指定しない [志自岐康子] 事前に提示する		
4. 成績評価方法 [中村由美子] 出席と参加度 [志自岐康子] 参加度とレポート		
5. その他 [中村由美子] 事例を3つ作成し、事前に配布しておく。それについて予習し参加する。事例のテーマは特定しない。		

授業科目 アドバンスト・ヘルスアセスメント	科目概要・形式 2単位 30時間 選択	配当年次 1年 前期
科目責任者	角 濱 春 美	
担 当 者	角 濱 春 美	
1. 科目のねらい・目標 高度の専門看護実践をするうえで必要な、看護ヘルスアセスメントの概念とその実際を学ぶ。		
2. 授業計画・内容 目標・方法 看護におけるヘルスアセスメントについて、系統的フィジカルアセスメントを基盤として、クライアントの状態に沿ったアセスメント技術と結果の臨床判断について、実践的に学ぶ。 看護におけるヘルスアセスメントの必要性と可能性について論じ、現在の臨床現場の問題解決につなげる。 アセスメントツール開発の研究手順と方法について学ぶ。 プレゼンテーション及びディスカッション、模擬患者を用いた実践演習を行う。		
3. 教科書、参考書 教科書 岡崎美智子・角濱春美編：根拠がわかる基礎看護技術，メヂカルフレンド社，2008. 参考書 Lynn S. Bickley, 福井次矢監訳：ベイツ診察法，メディカルサイエンスインターナショナル，2008.		
4. 成績評価方法 授業への参加姿勢、プレゼンテーション資料の完成度と内容		
5. その他		

授業科目	科目概要・形式	履修年次
国際母子保健学	2単位 30 時間	1年 後期
科目責任者	大関 信子	
担当者	大関 信子	
1. 科目のねらい・目標		
<p>1) 周産期にある母子の援助に関する国際規約 (ICM, ICN, WHO) を学び、臨床での周産期ケアシステムやサービスの問題点を明確にして改善方法を考えることができるようにする。</p> <p>2) 日本の国際化の現状を理解し、周産期にある外国人母子へのサービスを組織的に提供できる能力を養う。特に、母子保健上の問題、周産期管理 (管理者としての緊急事態や業務管理)、地域との連携、施策の参画ができるようにする。</p>		
2. 授業計画・内容		
<p>1) 周産期にある母子の援助に関する国際規約を学ぶ。</p> <p>①ICM：助産師の定義 助産師の国際倫理綱領 コアコンペテンシーズ (特に、異常の診断と対応策)</p> <p>②ICN：看護の定義、看護師の定義 看護師の倫理綱領 看護専門職と母性に関するヘルスケアサービス、ヘルスケアシステムに関する所信声明</p> <p>③WHO：「WHO の 59 カ条お産のケア実践ガイド」 「母乳推進の 10 カ条」</p> <p>④看護業務基準の国際比較と分析</p> <p>2) 国際化に対応できる周産期母子の専門家としての能力を養う。</p> <p>① 日本の国際化と外国人母子やその家族の特徴を理解する。</p> <p>② 外国人母子の母子保健上の問題や周産期管理上の問題を理解できる。</p> <p>③ 外国人母子のケア、特に管理者としての緊急事態や業務管理にも配慮することができる。</p> <p>④ 外国人母子のケア向上のため、外来や病棟での看護マニュアルを作成することができる。</p> <p>⑤ 外国人妊産婦の育児支援等、地域との連携を図り、施策にも参画することができる。</p> <p>3) CNSコース選択者のみ</p> <p>①外来、病棟にて外国人妊産婦を受け持ち、ケアの実践を踏まえ事例研究 (例：異常分娩・緊急処置) を実施する。</p> <p>②外国人母子のケアシステムを改善するため病棟で勉強会を持つ。</p>		
3. 教科書、参考書		
<p>オリエンテーション時に配付予定</p> <p>武谷雄二他：助産管理、助産学講座 8、医学書院、2003.</p> <p>新道幸恵編：母性看護概論・母性保健／女性のライフサイクルと母性看護、メヂカルフレンド社、2003.</p> <p>WHO の 59 カ条お産のケア実践ガイド」. WHO [編] / 戸田律子訳. 農山漁村文化協会, 1997</p>		
4. 成績評価方法		
<p>小論文 (事例研究 ; 5 ~ 10 枚程度)、出席状況、自主的学習態度等総合評価</p>		
5. その他		
<p>受講生のニーズにより内容を変更することがあります。</p>		

授業科目	科目概要・形式	配当年次
看護教育論	2単位 30時間 必修	1年 前期
科目責任者	上泉和子	
担当者	上泉和子、五十嵐 靖彦、大串 靖子、舟島なをみ	
1. 科目のねらい・目標		
看護ケアの質を高めるために、人間に対する哲学的考察を基盤にして、看護専門職としての看護の継続教育ならびにキャリア開発について学ぶ。		
2. 授業計画・内容		
[五十嵐靖彦]		(4コマ)
1. 人間の内的世界や人間存在の意味、身体をめぐる人間の体験などの哲学的考察		
2. 人間に対する看護の本質、価値、方法論を追求する哲学的考察		
[大串靖子]		(4コマ)
1. 看護専門職としての看護基礎教育・看護継続教育の概要		
2. 成人の教育 (アンドラゴジー)		
3. 看護における専門分化とその方向性		
4. 看護継続教育 (例: 院内教育・研修会企画等) の考え方、プログラム立案、方法、評価 教育的働きかけ、教育環境作り等含む		
5. 看護継続教育に関する研究論文のクリティークと討議		
[舟島なをみ]		(2コマ)
1. 看護教育学研究と研究成果に基づく教育の展開		
[上泉和子]		(4コマ)
1. 人的資源開発の理論		
2. 看護職者の生涯学習ニーズとその支援システム		
3. 看護職への教育的キャリア開発システム		
3. 参考書		
・ 杉森みど里・舟島なをみ著: 看護教育学、第4版、医学書院、2004、ISBN4-260-33323-2		
・ パトリシアバナー・ジュディスルーベール著、難波卓志訳: 現象学的人間論と看護、医学書院、1999、ISBN4-260-34363-7		
・ サラT.フライ著、片田典子・山本あい子訳: 看護実践の倫理、日本看護協会出版会、1998、ISBN4-8180-0622-x		
・ 井部俊子・中西睦子監修: 看護における人的資源活用論、日本看護協会出版会、2004、ISBN4-8180-0974-1		
・ エドガーH・シャイン著、二村敏子訳: キャリア・ダイナミックス、白桃書房、1994		
・ 小島恭子・野地金子編著: 専門職としてのナースを育てる看護継続教育、医歯薬出版、2005、ISBN4-263-23460-x		
4. 成績評価方法		
出席 プレゼンテーション、レポート、 授業への主体的参加度		
5. その他		

授業科目 看護理論特論	科目概要・形式 2単位 30時間 必修	配当年次 1年 前期
科目責任者	大関信子	
担当者	上泉和子、大井けい子、織井優貴子、リボウィッツ志村よし子、深谷智恵子、中村由美子	
1. 科目のねらい・目標		
<p>専門的看護実践の根幹となる看護の概念枠組みを理論的に構築するため、あるいは既存の看護理論・看護モデルを看護実践・看護教育および看護研究のうえに活用するため、①看護理論の構造、②代表的な看護理論の理解、③看護実践への理論の活用などの内容について学ぶ。</p>		
2. 授業計画・内容		
<p>下記の担当者により代表的な看護理論、看護モデルおよび中範囲理論を取り上げ、全体として看護実践に関連のある理論の構造や看護実践への活用などを学ぶ（オムニバス形式）。</p>		
第1-2回	〔上泉和子〕 ベナー看護論を中心に看護管理への適応について学ぶ P. ベナー	(2コマ)
第3-4回	〔大井けい子〕 コンフォート理論（中範囲理論）の基本的概念を理解し、看護実践への適応と評価を学ぶ K.Y.コルカバ	(2コマ)
第5-6回	〔織井優貴子〕 セルフケア論を中心に看護実践への適応とその評価について学ぶ D. オレム（仮）	(2コマ)
第7-8回	〔リボウィッツ・志村・よし子〕 マーサロジャース理論の基本的概念、看護過程への適応について学ぶ M. ロジャース	(2コマ)
第9-10回	〔深谷智恵子〕 クリティカルケア領域における中範囲理論をとおして臨床実践への適応とその評価について学ぶ 危機理論 ストレス理論	(2コマ)
第11-12回	〔大関信子〕 レイニンガー看護論を中心に文化ケアに関する理解を深める M. レイニンガー	(2コマ)
第13~14回	〔中村由美子〕 家族看護ならびに発達に関する理論を中心に、看護実践への適応のあり方と評価の方法について学ぶ 家族発達理論 家族システム理論	(2コマ)
3. 教科書、参考書		
教科書は特に指定しない。参考書として上記理論家の著書やその理論に関する評論をあらかじめ読んでおくことが望ましい。		
4. 成績評価方法		
<p>授業で取り上げない看護理論あるいは看護モデルについて調べ、その一つについて著者紹介と要旨ならびに自分で行った評論をレポートすること。参考・引用文献を明示すること。レポート用紙はA4版横書き、枚数の制限はない。提出は科目責任者へ。期限は最後の授業終了後1週間以内。成績評価は出席状況ならびにこのレポートにより行う。</p>		
5. その他		

授業科目 保健活動学特論	科目概要・形式 2単位 30時間 必修	配当年次 1年 後期
科目責任者	山本 春江	
担当者	山本 春江、反町 吉秀	
1. 科目のねらい・目標 地域保健活動学の動向から地域保健活動における展開方法について学び、地域保健活動の今日的意義並びに今後のあり方を考える。また、生活習慣病や要介護、高齢者虐待など幅広い地域保健活動の諸課題に対してアセスメント及び展開方法を探求できるように、既存の方法に加え、新しい理論の考え方や方法について学ぶ。		
2. 授業計画・内容 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="199 728 790 952"> (反町吉秀) ○世界的にみた地域保健活動の最近の動向 ○地域保健活動と保健所 ○地域保健活動と住民参画 ○セーフティ・ヘルスプロモーションの理論と実践 ○生活習慣病予防活動におけるエビデンス </div> <div data-bbox="1260 728 1356 772"> (6コマ) </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="199 996 1165 1288"> (山本春江) ○日本における地域保健活動学の動向 (ヘルスケアの歴史、現状と課題) ○地域保健活動の科学的方法 (保健行動理論、変化理論、ストレス・コーピング理論) ○方法としてのイノベーション ○方法としてのセルフエフェカシー ○方法としてのエンパワーメント ○方法としてのフィールドワーク ○方法としてのソーシャルサポート </div> <div data-bbox="1260 996 1356 1041"> (9コマ) </div> </div>		
3. 教科書、参考書 <ul style="list-style-type: none"> ・松本千明；医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎、医歯薬出版。ISBN 4263233379 ・E・M・ロジャース著；イノベーション普及学、産能大学出版部。ISBN 4-382-05051-0 ・ジェフリーローズ著、曾田研二監訳；予防医学のストラテジー、医学書院。ISBN 4260106287 ・箕浦康子；フィールドワークの技法と実際、ミネルウェア書房。ISBN 4-623-03004-0 ・上田敏；ICFの理解と活用、きょうされん。ISBN 4-89491-096-9 		
4. 成績評価方法 出席状況およびレポートを総合して評価する。		
5. その他		

授業科目 生活支援福祉学特論	科目概要・形式 2単位 30時間 必修	配当年次 1年 後期
科目責任者	大和田 猛	
担当者	大和田 猛、大山 博史、渡邊 洋一、出雲 祐二	
<p>1. 科目のねらい・目標</p> <p>[大和田 猛]</p> <p>近年の高齢者、とりわけ認知症高齢者ケアのあり方やレジデンシャルソーシャルワーカーや地域包括支援センターのソーシャルワーカーが対応する高齢者虐待防止の現実的課題を検討する。方法としては、文献や資料を中心に理念と実態の乖離を考究する。</p> <p>[渡邊 洋一]</p> <p>地域高齢者などの医療・保健・福祉の連携と協働について検討するとともに、コミュニティケアの視点から高齢者問題・障害者問題の生活問題についての包括的な課題を検討する。</p>		
<p>2. 授業計画・内容</p> <p>[大和田 猛]</p> <p>1～5回：認知症高齢者ケアのあり方やレジデンシャルソーシャルワーカー、地域包括支援センターのソーシャルワーカーについての基礎的文献の講読</p> <p>6回：高齢者虐待防止に関する事例の検討</p> <p>7回：高齢者の虐待防止をめぐる課題の討論</p> <p>[渡邊 洋一]</p> <p>8～13回：コミュニティケア理論に関する先行研究を考察する。</p> <p>14回：コミュニティケアに関する実証的・数量的な解析をする。</p> <p>15回：コミュニティケア理論の展望について考察をする。</p>		
<p>3. 教科書、参考書</p> <p>特に指定しない。必要に応じて講義の中で紹介する。</p>		
<p>4. 成績評価方法</p> <p>講義の参加状況、報告、討議などによって総合的に評価する。</p>		
<p>5. その他</p>		

授業科目 機能障害・回復学特論		科目概要・形式 2単位 30時間	配当年次 1年 後期
科目責任者	岩月 宏泰		
担当者	岩月 宏泰		
1. 科目のねらい・目標 機能障害と能力障害の因果関係を考察するために、生物学及び生体力学の両面からアプローチするための基礎知識について学習する。また、機能障害の回復過程やそれを促すために開発された理学療法介入の科学的根拠についても理解を深める。			
2. 授業計画・内容 1. 機能障害評価法：運動器疾患 2. 機能障害評価法：中枢神経疾患 3. 機能障害評価法：呼吸・循環器疾患 4. 機能障害評価法：高次脳機能障害 5. 理学療法治療理論：筋力増強法 6. 理学療法治療理論：関節可動域改善 7. 理学療法治療理論：体力増進 8. 理学療法治療理論：介護予防 9. 理学療法治療理論：平衡機能の向上 10. 理学療法治療理論：高次脳機能の学習成果 11. 理学療法治療理論：学習理論Ⅰ 12. 理学療法治療理論：学習理論Ⅱ 13. 理学療法治療理論：運動麻痺の機能回復			
3. 教科書、参考書 Carr HJ, Shepherd BR 著, 潮見泰蔵, 斎藤昭彦訳：脳卒中の運動療法 エビデンスに基づく機能回復トレーニング, 医学書院, 2004, ISBN: 4-260-24433-7			
4. 成績評価方法 出席状況, 課題に対する発表内容により評価する。			
5. その他			

授業科目 機能障害・回復学演習	科目概要・形式 2単位 60時間	配当年次 2年 前期
科目責任者	岩月 宏泰	
担当者	岩月 宏泰	
1. 科目のねらい・目標 機能障害・回復学特論で学習したことを基礎として、機能障害と能力障害の因果関係を考察するために生物学及び生体力学からアプローチした学術論文を読む、また、身体運動に関する実験の計画、解析及び論文作成という過程を経験することで、機能回復を目指した理学療法介入について理解を深める。		
2. 授業計画・内容 ヒトまたは動物を対象とした実験を通して、身体運動の生体力学、組織化学及び生理学的解析について学習する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 三次元動作解析装置の取り扱い方と解析方法 2. 顕微鏡標本の作製・観察 3. 誘発筋電計及び脳波計の取り扱い方と解析方法 4. 呼気ガス分析装置の取り扱い方と解析方法 		
3. 教科書、参考書 特に指定しない。必要に応じて資料を提供する。		
4. 成績評価方法 出席状況、課題に対する発表内容により評価する。		
5. その他		

授業科目 リハビリテーション・福祉工学特論	科目概要・形式 2単位 30時間 必修	配当年次 1年 後期
科目責任者	渡部 一郎	
担当者	渡部 一郎、藤田 智香子	
1. 科目のねらい・目標 1. リハビリテーションの作用・効果を生理学的に解明し、新しいリハビリテーション・福祉機器の開発、その運用・評価法を研究する。 2. 機能障害、活動制限、社会参加の制約の評価法・アプローチ法を検討する。 3. 物理療法の作用・効果を明らかとする。 4. 新しいリハビリテーション・福祉機器の開発、その運用・評価法を検討する。 5. 生活障害学について、評価アプローチを進める。		
2. 授業計画・内容 (オムニバス方式) 渡部 一郎 (7コマ) 長高齢社会における疾患の病態、各種障害の評価・アプローチ法を検討する。 <内容> 1回：医療におけるリハビリテーション診療の位置づけ 2回：障害と障害予防の概念 3回：ADL,QOL評価 4回：電気生理・運動生理学的評価 5回：各種リハビリテーション・福祉工学機器 6回：統合医療・代替医療 7回：医療福祉システム 藤田 智香子 (7コマ) 生活障害の支援に関して、内的な身体面・心理面と共に外的な環境面に注目し、その評価から実際のアプローチについて検討する。 <内容> 1回：生活障害の支援方法：評価の視点と分析 2回：環境的側面(物理的, 人的, 社会的側面)の評価 3回：〃 4回：環境的側面からのアプローチの実際 5回：事例検討①：問題点の分析、支援内容・方法の検討 6回：事例検討②：〃 7回：現状と問題点、今後の課題、まとめ		
3. 教科書、参考書 教科書は指定しない。 参考書 (渡部 一郎) 1. EBM物理療法2版 (渡部一郎監訳), 医歯薬出版, 2006. 2. リハビリテーション医学の新しい流れ (先端医療シリーズ36)、先端医療技術研究所, 2005 (藤田智香子) 1. 野村みどり：バリアフリーの生活環境論. 医歯薬出版, 2004. 2. 野村欽・橋本美芽：バリアフリーデザインブック. 彰国社, 2005. 3. 内山靖：環境と理学療法. 医歯薬出版, 2004.		
4. 成績評価方法 課題レポートの内容、出席状況等により総合的に審査する。		
5. その他 各自の特別研究課題との係わりを視点において、授業を展開したい。		

授業科目 リハビリテーション・福祉工学演習	科目概要・形式 2単位 60時間 必修	配当年次 2年 前期
科目責任者	渡部 一郎	
担当者	渡部 一郎、藤田 智香子	
1. 科目のねらい・目標 <ol style="list-style-type: none"> リハビリテーションの作用・効果を生理学的に解明し、新しいリハビリテーション・福祉機器の開発、その運用・評価法を研究する。 機能障害、活動制限、社会参加の制約の評価法・アプローチ法を検討する。 統合医療として、各種アプローチ法を検討する。 新しいリハビリテーション・福祉機器の開発、その運用・評価法を検討する。 生活障害学について、評価アプローチを進める。 		
2. 授業計画・内容 (オムニバス方式) <p>渡部 一郎 (14コマ) わが国の高齢者医療の現状に即したリハビリテーション機器・福祉工学機器開発に貢献すべき新技術研究をサポートする。 <内容> 1回～3回：新しい評価法と治療手段 4回～6回：実験計画 7回～13回：実験・データ整理 14回：報告、まとめ</p> <p>藤田 智香子 (13コマ) 生活障害の支援において、内的な身体面・心理面と共に外的な環境面に注目し、その評価から実際のアプローチについて事例を通して検討する。 <内容> 1回 生活障害の支援：総合的な評価と分析 2回 事例検討：環境的側面(物理的, 人的, 社会的側面)の詳細な評価 3～6回 // : 環境整備の方策検討(文献検索等情報収集含む)と実施計画立案 7～11回 // : 試作・調整等 12回 // : 事後評価 13回 生活障害の支援：環境的側面のアプローチでの課題</p>		
3. 教科書、参考書 <ul style="list-style-type: none"> 教科書は特に指定しない。 参考書 (渡部 一郎) : <ol style="list-style-type: none"> EBM物理療法 2版 (渡部一郎監訳), 医歯薬出版, 2006. リハビリテーション医学の新しい流れ (先端医療シリーズ36)、先端医療技術研究所, 2005 (藤田智香子) <ol style="list-style-type: none"> 野村みどり：バリアフリーの生活環境論. 医歯薬出版, 2004 野村歆・橋本美芽：バリアフリーデザインブック. 彰国社, 2005. 内山靖：環境と理学療法. 医歯薬出版, 2004. その他は授業の中で提示する。 		
4. 成績評価方法 課題レポートの内容、出席状況等により総合的に判定する。		
5. その他		

授業科目 健康・栄養ケア特論	科目概要・形式 2単位 30時間 必修 グループワーク、発表	配当年次 1年 後期
科目責任者	藤田 修三	
担当者	吉池 信男、藤田 修三、吉岡 美子	
1. 科目のねらい・目標 マクロな視点から、健康観や健康問題、健康に関わる情報等について学び、食生活・栄養を通じて人々の健康及びQOLの向上を図るための戦略と方法に関して深く考えます。 前半では、主に地球規模、国レベルでの健康・栄養問題の理解と解決方策について、国内外の資料等を用い、グループワーク、発表等を通じて理解・考えを深めます。 後半では、青森県の健康調査を分析し、また健康の現状について生活習慣との関連性から閑雅を深めます。		
2. 授業計画・内容 (吉池信男) 第1講 健康とは何か ～健康と文化、健康と社会・経済～ 第2講 世界における栄養問題と対策 第3講 少子高齢化社会における栄養問題と対策 第4講 世界、国、地域のつながり ～グローバルな視点から地域活動を考える～ (藤田修三) 第5講 青森県の健康 (県健康調査等、結果の比較検討) 第6講 青森県の健康 (健康寿命、生活習慣病との関連性) 第7講 青森県の健康 (喫煙、食生活、運動、休養)		
3. 教科書、参考書 資料は講義時に適宜配布します。		
4. 成績評価方法 出席とレポートにより評価します。		
5. その他 英文資料を多く使用します。		

授業科目 環境保健学特論		科目概要・形式 2単位 30時間 必修	履修年次 1年 後期
科目責任者	佐藤 伸		
担当者	佐藤 伸、今 淳、山田 真司		
1. 科目のねらい・目標 <p>私たちがとりまく様々な環境因子や栄養因子は、ヒトの生理機能に影響を与え、健康障害に大きく関わっている。たとえば、環境汚染物質や種々の食品成分等によって、がんや高血圧、糖尿病等の生活習慣病が発症することが知られている。本講義では、健康の維持・増進となるライフスタイルをはじめ、生活習慣病の発症機序および予防、環境汚染物質による健康影響等に関する基本的知識について学ぶ。さらに、疫学データの解析にしばしば用いられるデータ解析手法である多変量解析を学ぶ。</p>			
2. 授業計画・内容 [佐藤 担当] <ol style="list-style-type: none"> 1) イントロダクション (環境保健学, 公衆衛生学の歴史とその役割) 2) 化学物質のリスクアセスメント (概念と実際) 3) 重金属の代謝と健康影響 4) 生活習慣病と酸化ストレス (特に, 動脈硬化性疾患について) 13) まとめと評価 [今 担当] <ol style="list-style-type: none"> 5) 環境因子の生体への影響 (分子, 細胞, 組織, 器官, 個体の各レベルでの影響、各種疾患や病態の発症・形成機構) 6) 栄養因子の生体への影響 (分子, 細胞, 組織, 器官, 個体の各レベルでの影響、各種疾患・病態の発症・形成機構) 7) 予防法・治療法 I (総論) 8) 予防法・治療法 II (各種疾患や病態における予防及び治療法) [山田 担当] <ol style="list-style-type: none"> 9) 多変量データの概要: 多変量データの概要, 多変量データの数学的表現法 10) 外的基準のある場合: 重回帰分析, 判別分析 11) 外的基準のない場合: 主成分分析, 因子分析 12) 質的データの解析: 数量化とダミー変数の適用 			
3. 教科書、参考書 教科書、参考書は特になし。ゼミ中に必要な文献、資料等を配布する。			
4. 成績評価方法 ゼミへの出席数、ゼミの準備程度、ゼミ討論への積極的参加姿勢と理解度などから総合的に判定する。			
5. その他 (教科書、参考書、成績評価方法など)			

授業科目	科目概要・形式	配当年次
看護システム開発論	2単位 30時間 必修	1年 後期
科目責任者	リボウィッツよし子	
担当者	リボウィッツよし子	
<p>1. 科目のねらい・目標</p> <p>日米のヘルスケアシステムの歴史、文化、社会的背景から、看護の機能を効果的に発揮できるシステム開発方法を国内外の文献購読によって、関連理論や最近の研究動向をもとに学ぶ。</p>		
<p>2. 授業計画・内容</p> <p>1) ヘルスケアシステムの変遷：ライノフのアメリカにおける看護の変遷を討議し、日本の看護の方向性を分析・考察する。(6コマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 官僚的ヘルスケアシステム (1945-1960) 2. ヘルスケアシステムの再構築 (1960-1980) 3. ヘルスケアシステムの再配置 (1980-現在) <p>2) 日本におけるヘルスケアシステム・地域の健康政策 (青森県) などについて調査した結果を発表し日米比較から課題について討議する。(4コマ)</p> <p>急性期ケア, 長期ケア施設, 在宅,</p> <p>3) Issues & Trends</p> <p>医療過誤、個人情報保護法、生前指示、終末期医療、などに関する最近のトピックスをもとに国際的に比較研究し、システム構築を討議する。(5コマ)</p>		
<p>3. 教科書</p> <p>Lynaugh, Joan E and Barbara L. Brush. <u>American Nursing from Hospitals to Health Systems</u> Blackwell: Cambridge, Massachusetts, 1996 (コピーをこちらで用意します)</p> <p>参考書 参考文献リストを第1回授業時に配布します。</p>		
<p>4. 成績評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への参加度 20% ・ プレゼンテーション 30% ・ 30%最終レポート「私のシステム開発」 50% 		
<p>5. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一回目の講義時にコースの概略、課題学習等についてオリエンテーションを行います。シラバス内容は、参加者の要望により変更することもあります。 ・シラバスは、参加者背景により変更が可能です。 ・連絡方法：y_leibowitz@auhw.ac.jp (TEL)017-765-2100 ・オフィスアワー：毎木曜日 1300-1700、その他適宜対応します。 		

授業科目 成人看護学特論	科目概要・形式 2単位 30時間 必修	配当年次 1年 前期
科目責任者	織井優貴子	
担当者	織井優貴子	
1. 科目のねらい・目標 成人期にある人々を理解するために必要な諸理論・方法を学び、がんなどの生活習慣病、ストレスに関連した健康問題に着目し、終末期を含めた QOL の維持・向上を目指した看護介入に生かす能力を養う。 また、ケアの方法および介入効果を検討し、成人学習の特徴を踏まえた効果的な看護援助システムについて探求する。		
2. 授業計画・内容 1) 成人期にある人の理解 2) 成人学習の特徴 成人学習に有用な成人教育学理論について 3) 成人（高齢者）の健康生活や行動を理解するための主要概念と理論 ・ストレス・コーピング理論、セルフケア理論、危機理論、セルフエフィカシー等の理解と実践 ・保健行動理論など 4) 生活の質の評価尺度（健康関連 QOL 等）について 5) がんなどの生活習慣病の最新の治療動向と看護 6) がん患者などのケアに関する研究〔文献検討〕 7) 介入効果を検討するための調査研究方法について 8) シミュレータを用いた効果的な学習方法の探究		
教科書、参考書 ＊参考文献は、適宜紹介する。		
4. 成績評価方法 講義への参加度、課題レポート、プレゼンテーションにて総合的に評価する。		
5. その他 講義内容は参加者の要望により変更することもあります。		

授業科目 高齢者看護学特論	科目概要・形式 2単位 30時間 必修	配当年次 1年 前期
科目責任者	織井優貴子	
担当者	織井優貴子	
1. 科目のねらい・目標 高齢者、特にがん患者とその家族のサポートシステムを中心に、国内外の最新の研究から最新の動向を学び、患者とその家族の QOL 維持・向上のための看護援助の方法を探究する。		
2. 授業計画・内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者ケア [がん看護、緩和ケア] の背景、歴史的経緯 発達心理学的理解 (エリクソン、マズロー、など) も含む 2) 加齢に伴う諸機能の変化：疾患の病態生理学的理解 3) 高齢者、がん患者ケアとサポートシステム：我が国の保健・医療・福祉のシステムとその現状 他職種連携の必要性について 4) 高齢者、がん患者とその家族の健康評価に関連した理論と実際 5) 高齢者、がん患者のケアの場と Quality of Life [在宅ホスピス、緩和ケア病棟、一般病棟など] 6) 高齢者、がん患者ケアの国内外の研究レビューとクリティーク。 7) 高齢者、がん患者とその家族へのサポートシステムに関連した国内外の研究レビューとクリティーク 8) まとめ [高齢者、がん患者とその家族支援システムについて考察する] 		
3. 教科書、参考書 *参考文献は、適宜紹介する。		
4. 成績評価方法 講義への参加度、課題レポート、プレゼンテーションにて総合的に評価する。		
5. その他 講義内容は参加者の要望により変更することもあります。		

授業科目	科目概要・形式	配当年次
成人・高齢者看護学演習 I	1単位 30時間 必修	1年 後期
科目責任者	織井優貴子	
担当者	織井優貴子	
<p>1. 科目のねらい・目標</p> <p>特定の関心領域（がんリハビリテーション看護、緩和ケア、高齢者看護、成人教育）について、的確にアセスメントするための視点、調査方法、分析方法を学び、それらに基づいて専門的な看護援助を提供するための方法について探究する。</p>		
<p>2. 授業計画・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 関心領域を展開するための方法論の探究 〔事例分析、調査方法、心理的介入方法など〕 2) 関心領域の患者、家族に適した援助方法について論文クリティークし、援助方法の有効性、妥当性、評価方法等を検討する。 3) 各自の研究課題に沿ったケア方略について検討する。 4) 事例分析、論文クリティーク等を踏まえて、研究計画書を作成する。 		
<p>3. 教科書、参考書</p> <p>*参考文献は、適宜紹介する。</p>		
<p>4. 成績評価方法</p> <p>講義への参加度、課題レポート、プレゼンテーションにて総合的に評価する。</p>		
<p>5. その他</p> <p>講義内容は参加者の進捗状況により変更することもあります。</p>		

授業科目 母子家族看護学特論	科目概要・形式 2単位 30時間 必修	履修年次 1年 前期
科目責任者	中村 由美子	
担当者	中村 由美子 大井 けい子 室月 淳	
1. 科目のねらい・目標 母子家族看護学の対象を理解するために、周産期にある女性と子どもをとりまく健康生活と健康問題の特性を理解する。特に家族を形成していく過程を中心に、生活・健康上の変化や健康問題の特性と家族との関係性を理解し、その援助理論を学ぶ。また、母子家族看護学の基本を学ぶことで、家族を含んだ健康問題を包括的に査定するために必要な方略やその援助方法について考察する。さらに、最近のバイオエシックスなどの倫理的問題について理解を深め、母子家族看護学の実践と研究への適用のあり方を考察する。		
2. 授業計画・内容 【大井けい子】 周産期にある女性とその家族の健康生活や遭遇する健康問題の特性について理解し、家族に効果的に支援できるような看護援助に必要な諸理論や業務管理、コンサルテーションに関する理論について、国内・外の文献を基に学ぶ。 (5コマ) 1) ケアの特性 2) 周産期の母子への家族中心のケア・・・支援システム 3) 周産期母子への地域ケア・・・ピアサポートを含めて 4) 周産期母子の健康生活を発展させるためのコンサルテーション、コーディネート、マネジメント 【中村由美子】 小児各期にある対象の健康生活、健康の特性、および家族の状態も含めて健康問題を査定するのに必要な方略や援助方法について学び、小児家族看護学の実践と研究について考察する。 (6コマ) 1) 母子家族看護学の研究の動向 : 文献レビュー 2) 小児家族看護学における健康問題の特性や実践、研究 【室月淳非常勤講師】 周産期にある母子関係の樹立、母乳育児、さらにリスクを背負った母子、生命的問題、低出生体重児、障害の問題等について、母子、家族その他の心理的問題を分析し理解を深める。 (4コマ) 1) 周産期の特徴と問題点 2) 低出生体重児の出生と予後、更に母子関係の問題点 3) 日本では軽視されていると考えられる流産、死産さらに「障害児」出産の問題点 4) 出生前診断の持つ問題点 などにつき出来る限り討論形式で理解を深める。		
3. 教科書・参考書 講義の中で紹介する。		
4. 成績評価方法 レポート、小論文などにより評価する。		
5. その他 事前学習をきちんと行うこと。		

授業科目 小児家族看護学特論 I	科目概要・形式 2単位 30時間 必修	履修年次 1年 前期
科目責任者	中村 由美子	
担当者	中村 由美子	
1. 科目のねらい・目標 小児とその家族を看護の対象として理解するために、小児各期の成長・発達理論やセルフケア理論、ストレス・コーピング理論など、小児家族看護学の基礎となる諸理論について学び、看護実践に生かす。また、小児と家族を取り巻く保健・医療・福祉の制度についても理解し、小児家族看護実践の展開方法についても学ぶ。これらの専門的知識を習得し、実践することにより、小児家族看護を実践できる能力を養う。		
2. 授業計画・内容 1) ①オリエンテーションおよび小児看護学（母子保健も含む）の歴史 ②小児における医療制度と福祉制度 2) ③小児の在宅ケア制度 ④最近の我が国における母子保健施策（健やか親子21、青森県における母子保健および政策など） 3) ⑤⑥討議：これからの小児医療のあり方 （成育医療や地域保健との関連を踏まえ、地域や他職種間の連携について考える） 4) ⑦⑧小児看護学領域における発達理論 学生によるプレゼンテーション 理論の違いについても言及すること （ボウルビイー、エリクソン、ピアジェ、フロイトなど）学生個々が自分の研究 5) ⑨⑩発達の考え方、基本的な概念。発達を評価する 6) ⑪⑫ 子どものストレスやセルフケア 7) ⑬⑭ 親子関係および親子関係の評価 8) ⑮まとめ		
3. 教科書・参考書 講義の中で紹介する。		
4. 成績評価方法 レポート、学生個々のプレゼンテーションなどにより評価する。		
5. その他 学生個々のプレゼンテーションとディスカッションを通して学んでいくため、事前学習をきちんと行うこと。		

授業科目	科目概要・形式	履修年次
母性看護学特論	2単位 30 時間	1年 前期
科目責任者	大関 信子	
担 当 者	大関信子・中村由美子	
1. 科目のねらい・目標		
<p>ウィメンズヘルスという枠組みの中で、リプロダクティブヘルス・ライツや自己決定の概念を基幹として、ライフサイクル毎における女性の特徴を理解し、健康問題の診断や看護援助方法を学ぶ。また、健康教育や相談を含めたヘルスプロモーション、性や性機能に関するケアシステムや倫理的問題についても文献講読や事例を通して学ぶ。</p>		
2. 授業計画・内容		
【大関信子】(ウィメンズヘルス：成熟期・更年期・老年期)		
<ol style="list-style-type: none"> 1. ウィメンズヘルスとは何か 2. Women's Sexuality 3. ライフサイクルとリプロダクティブヘルス・ライツ 4. リプロダクティブヘルスとケア 5. 成熟期・更年期・老年期女性の身体的、心理的、社会的特徴とセクシャリティの特徴 6. 成熟期・更年期・老年期のリプロダクティブヘルス・ライツと健康課題 7. 成熟期・更年期・老年期のケアシステム 8. 成熟期・更年期・老年期と看護倫理 9. 対象理解(事例1)：更年期障害を抱えた場合のアセスメントとケアの実際 10. 対象理解(事例2)：セクシャリティの問題を抱えた場合のアセスメントとケアの実際 (学生の人数や希望により内容を多少変更することがあります) 		
【中村由美子】(思春期)		
<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスプロモーションとは何か 2. 思春期におけるヘルスプロモーション 3. 思春期の特性と健康課題 4. 同上 		
3. 教科書、参考書		
【大関 信子】日本看護協会出版会「看護実践の倫理」その他、随時紹介する。		
【中村由美子】		
4. 成績評価方法		
【大関信子】事例報告(5枚程度)、出席状況、自主的学習態度等 総合判定		
【中村由美子】思春期における健康課題/問題を一つ取り上げ、A4用紙5枚以内で説明すること		
5. その他		